日本中国語学会々報　2015年6月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
佐藤晴彦先生への名誉会員称号授与にあたって 2
支部例会実施報告　2015.1-2015.5 3
臨時委員会の設置について 5
会議報告 5
全国大会および例会開催のお知らせ 10
選挙公示 11
事務局からのお願いとお知らせ 11

ご挨拶

太田　斎（日本中国語学会会長）

昨今は一時と比べると、日中関係の冷え込みに明るさが見られるようになってきたようです。先日の二階俊博自民党総務会長と中国の習近平国家主席との会談にしても、笑顔が見られ、先の安倍首相と習主席の仏頂面の握手を思い浮かべると、驚きを禁じ得ませんでした。両国の関係が更に良い方向へと向かうよう願わずにはいられません。

大学でも中国語履修者の数は底を打ったというような声もあるようです。少子化の中で、万事が悲観的な予測となっている中では、中国語の教育に携わる者としては、一先ず安堵といったところでしょうか？

中国からの旅行客の増加も驚異的で、富裕層ばかりではありましょうが、日本の日常の姿を見て、多くの来日した中国人が中国国内の管制報道の内容とは異なることを実感してくれることは素晴らしいことだと思います。

翻って日本人の中国を見る目はどうでしょうか？現在、日本のマスコミが流すニュースは中国及び韓国に対して、嫌中、嫌韓を煽るような報道に偏っているような気がしているのは私だけでしょうか？朝鮮半島についてはちょっと脇に置いておきます。近年のデータで明らかなように、中国を訪れる日本人の数は激減しています。PM 2.5 のニュースで二の足を踏むのも理解できない訳ではありません。ですが中国を知らずして、嫌中の報道ばかりに接していると、反例となる事象を知らないだけに、安易に嫌中に堕してしまうのでは、中国を客観的に見る目が養われないのでは、と危惧してしまいます。もちろん、自分の五感で中国を知ることが最も大事であることは言うまでもありませんが、中国に行ったことのない人、中国を知らない人々に客観的かつ冷静に中国を見る目を養ってもらうためには、我々日本において中国語教育に従事している者の責任は大きいと感じざるを得ません。

PC 環境、OA 機器の驚異的な発達により、かつては考えられなかったような中国語教育

の方法が開発され、より効果的な教育方法が様々生み出されております。もちろん、教え方について切磋琢磨して、絶えず改善を図ることに異論はありません。私が申し上げたいのは、中国語は残念ながら、普通の外国語とは異なった一面を払拭できておりませんし、恐らくこの先も払拭することは困難だろうということ、そんな状況下では、教わる側は嫌がることがあるかも知れませんが、「中国語」のみに止まらず、「中国」を教えるということを常に心がけておかねばならないだろうということです。私は日中国交回復後、1979 年に始まった政府間交換留学生制度を利用して1980-1982 年に留学した者です。私の感覚が古いと批判される方もおられるでしょうが、外国語学習に当って言語のみならず、その地域の歴史、社会、文化、政治経済、法律等諸般に通ずることが重要ということは、何も中国語に限ったことではないことはご理解頂けるものと思います。

佐藤晴彦先生への名誉会員称号授与にあたって 竹越孝（神戸市外国語大学）

神戸市外国語大学名誉教授佐藤晴彦先生は、故太田辰夫先生の学問を受け継ぐ形で、近世中国語の語彙・語法研究を続けてこられた。これまでに先生の研究がもたらした多くの新しい知見は、日本の中国語学の発展に大きく寄与するものである。特に、新旧『平妖伝』の語彙・文法面での差異を基に『三言』における編者馮夢龍の関与の度合いを明らかにした一連の研究は、新たな方法論を提示したものとして中国でも高く評価されている。また、近年は異体字の使用状況から小説や戯曲の成立・出版時期を明らかにする研究を進めておられ、その飽くなき探求心は我々後に続く者を刺激してやまない。それと同時に、先生は関西地区における中国語研究・中国語教育の中心的な担い手として後進の育成と中国語の普及に力を注いでこられた。

本会の関係では、1988 年に第 38 回全国大会が神戸市外国語大学で行われた際に、開催校の責任者として運営に尽力された。そして、1996 年に編集委員を務められたのを皮切りに、2000 年からは常任理事及び理事を 12 年間にわたって務められ、さらに 2008 年からの 2 年間は副会長の重責を担われた。その功績はまことに顕著である。

― 略歴 ―

1944 年　大阪市に生まれる
1968 年　神戸市外国語大学中国学科卒業
1973 年　大阪市立大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
大阪市立大学助手、専任講師、神戸市外国語大学助教授、教授、特任教授を経て、
2013 年　神戸市外国語大学を退任、現在名誉教授

― 本会関係略歴 ―

1982 年　中国語学会理事（～2000 年）
1996 年　日本中国語学会編集委員（～2002 年）
2000 年　日本中国語学会常任理事（～2006 年）
2006 年　日本中国語学会理事（～2012 年、2008～2009 年度副会長）
2015 年　日本中国語学会名誉会員

支部例会実施報告　2015.1-2015.5

◆北海道支部例会

◇2015 年 3 月 21 日（土）北海道大学

・ 山田大輔（北海道大学・院）：上古から中古に至るまでのアスペクト体系の変遷に関する一考察

上古漢語におけるアスペクト体系については、Pullyblank（1994）が時間副詞の“既”“已”だけでなく、文末の“矣”もアスペクトを担う要素と考え、一つの見方を提示した。その後、時間副詞については主に Meisterernst（2005）、文末の“矣”については主に劉承慧（2007）などによってさらに研究が進められた。しかしながら、上古から中古にかけての両者の使用状況を見ると、“既”“已”には機能分化が見られ、“既”“已”と“矣”の共起関係にも変化が見られる。本発表は主に“既”“已”と“矣”の共起関係に着目し、上古から中古にかけてのアスペクト体系の変遷に関して、一つの見方を提示する。

・ 山崎直樹（関西大学）、植村麻紀子（神田外語大学）、鈴木慶夏（釧路公立大学）、中西千香（愛知県立大学）、西香織（北九州市立大学）：学習者用文型リストに「やりとりモード（＝会話モード）」が必要な理由

発表者らは現在「外国語教育のめやす―高等学校の中国語と韓国語教育からの提言」で提案されたコミュニケーション能力指標に基づき「初級中国語学習者のための文型表」を作っている。この文型表は「理解する、伝える、やりとりをする」の３モードに分かれている。「やりとりをする」というモード(＝会話モード)を特に設けるのは「言語／中国語には会話モードでないと学べない重要な制約がある」からである。今回の発表では「〈協調の原理〉には従っているが統語的には非共鳴型である応答」（你有表吗？－现在九点。）「共鳴型応答における省略と待遇度の高低」「語順選択の文脈依存」（在食堂不吃饭 / 不在食堂吃饭）等を中心にこの点を論じる。

◆関東支部例会

◇2015 年 3 月 14 日（土）東京外国語大学

・ 神野智久（大東文化大学・院）：起点からの移動を表す表現について―非対称性の視点から―

本発表では、現代中国語における起点からの移動を表す表現について概観する。連語論や、Jackendoff の研究では、起点からの移動は、着点への移動と同一のカテゴリーに分類されている（鈴木康之 2011、Jackendoff 1900）。しかし、着点への移動のほうが、より頻繁に用いられることから、ことばは、より着点への移動を好んでいると仮定される（Laure Sarda2015）。それに比例して、着点への移動に関する研究も、より多くの蓄積があるといえるだろう。しかしそれは同時に、起点からの移動の表現に関する研究は、いまだ十分とはいえないことを意味する。そこで本発表では、非対称性という視点から、現代中国語における起点からの移動を表す様々な表現を取り上げ、その特徴を概観する。

・ 王振宇（中央学院大学）：湖南省邵阳县北部的“平话方言岛”

中国湖南省邵阳县一带的方言属于湘语娄邵片武邵小片。我们在邵阳县北部的岩口铺镇进行调查时获悉该镇某些村 70 岁以上的人会说两种话：一种

是接近邵阳市区话的湘方言，另一种被称为“平话”，仅限于村民内部使用，外人难以听懂。我们通过进一步调查发现“平话”和周边的湘方言相比的确具备诸多特色。譬如，大部分中古鼻韵母字的韵尾脱落，部分流摄字和效摄字韵母合流。在本次发表中，我们将“平话”和周边数个方言点进行比较，总结该方言部分语音以及词汇方面的特征，并对该方言的归属问题进行初步探讨。

・ 藤田拓海（二松学舎大学・院）：中古音資料としての『正名要録』

唐初に成立した『正名要録』（敦煌本 S.388）は、おもに字体資料として用いられているが、その後半部の全体的配置は四声に従い、細部では同音字を並べている。しかし、『正名要録』で同音となっているものの中には『切韻』で別音となるものがあるなど、いくつか相違する点が存在する。また、文字の排列に関しては、同韻字を連接させる傾向も見受けられるが、『干禄字書』とは異なり『切韻』によっているわけではない。本発表では以上の点について、『切韻』および周辺資料を用い、『正名要録』の音韻に関する考察を行う。

◆北陸支部例会

◇2015 年 3 月 21 日（土）近江町交流プラザ

・ 王玉（金沢学院大学）：四字熟語から中国語を習う

ウェブやモバイルの発展に伴い、ネットへの自己発信が可能になってきた。簡潔しかも平易な口語を文字で写し取った短いテキスト文が求められている。日本の複数の調査に拠れば若年層、特に大学生が漢字を積極的に使用している。この現状を踏まえ、筆者は大学の中国語履修者に対し、二年目から教材に四字熟語を取り入れた。四字熟語には、狭義の四字熟語、すなわち「四字成語」（五穀豊穣など）と、「広義の四字熟語」（焼肉定食など）がある。両方合せて意味用法を教えるとともに、四字熟語の覚えやすさを生かして中国語の文法、文構成も学ばせた。本稿は学生の漢字に対する興味を高めつつ自然に中国語構文を学習させる方法を提示する。

・ 石俊（関西外国語大学）：日本語を母語とする中国語学習者の日中同形語習得について

日本における中国語学習者に向けて、修得段階別学習語彙リストがいくつか公表されているが、日中同形語の語彙に特化したリストは管見の限り見当たらない。中国語の語彙教育の現場に向けるガイドラインが必要だと思われる。特に、学習者の中国語のレベルに応じて、同形語を量的に把握している教師・研究者は少ない。例えば初級段階で、覚えなければならない同形語はどれぐらいあるのか。中級、上級の学習段階に入ってからまたどうなるのか。最初の試案として、本研究の課題の一つは中国語基礎語彙の中の日中同形語に対する量的検証である。そして中国語基礎語彙の中の日中同形語の意味分類及びその割合も明らかにする必要がある。

・ 金萍（金沢大学・院）：終結性と主題の展開性からみた「…是…VO 的」と「…是…V 的 O」の違い

中国語の“是…的”構文の内、焦点内包を表す形式には“…是…VO 的”文と“是…V 的 O”文がある。本報告では、「後文にどのように繋ぐか」という主題展開の視点から二種類の文の成立要件を考察する。考察対象には CCL コーパスから無作為抽出した“是…的”30000 例の中にある“VO 的”244 例と“V 的 O”1000 例を用いた。主題の展開性について文脈分析を行った結果、“是…VO 的”では“是”と“VO 的”の間の連用修飾語が先行詞となり、後続文では様々な表現が承前形式になること、“是…V 的 O”では“O”が先行詞となり、後続文では同一単語や指示形式

が多く用いられることを見出し、考察を加えた。更に“是”の有無が文の終結性にどう影響するかについて調査した。

・ 王燕（北陸大学・孔子学院）：対照言語学の立場からみた中国語の名詞述語文

名詞述語文の分類についての研究は、日本語学会でも中国語学会でも数多い。筆者は日中両言語ともに「同一づけ」「動作づけ」「状態づけ」「性質づけ」（高橋太郎 1984）に分類できると仮定し、言語習得の観点から対照研究を行う。本稿ではその第一歩として中国語における「同一づけ」以外の名詞述語文について、二つの事物や概念の結びつき、特に主語と述語の意味的関係はどのような内容を表すことができるのか、また、その関係はどういう根拠に基づいて解釈できるのかを考察する。その結果、中国語の名詞述語文によって表される関係が非常に多様なものであること指摘し、言語習得における名詞述語文の指導の範囲を広げる必要があると提言する。

◆中国支部例会

◇2015 年 5 月 24 日（日）広島大学

・ 劉傑（広島大・院）：程度表現“更”と“还”の意味内容に関する一考察

程度に関わる副詞“更”と“还”が、程度の高さを表わすことに重点を置くのか、あるいは程度を比較することに重点を置くのかについては、意見が分かれるところである。“更”と“还”は、いずれも比較構文に用いることができ、置き換わることが多いが、本発表では、互いに置き換えられない“更”と“还”に注目し、それぞれの表現意図を分析し、“更”と“还”の意味特徴を明らかにしたうえで、さらに構文上の特徴について分析を試みる。

・ 丁雷（島根大）：谈谈中级 2 外汉语教学中语音能力培养目标的设置问题—以岛根大学汉语辅修专业为例—

汉语辅修专业的汉语教学是介于“汉语专业教学”（以东京外国语大学中国语学科、大阪大学外国语学部中国语专业等为代表）和“2 外汉语教学”（以各大学开设的一周两节课为主的一般教养科目为代表）之间的汉语教育活动。从应用语言学和跨文化比较专业的学术角度来看，它的学科专业性并不强。但是若从语言实践能力和对中国社会的认识程度来看，它又比 2 外汉语教学的要求高。我们暂且对这种类型的汉语教育以“中级 2 外汉语教学”来命名。那么，这种“半专业化”性质的汉语教育，其语音培养目标应该如何来设置？又如何来评价？本文主张从“反映语言事实”、“启发创造性思维”、“保持学习热情”三个角度来思考，力求为解决这一问题提供一些参考意见。

臨時委員会の設置について

第 64 回全国大会の一部発表内容に対する著作権侵害の申し立てに対応するため、理事会及び評議会の承認を経て、2015 年 3 月 23 日、委員会に関する内規第（1）条による臨時委員会として「研究公正調査委員会」（大西克也委員長）を設置しました。　（会長）

会議報告

■ 編集委員会

◆2015 年度第 1 回編集委員会(『中国語学』262 号)

日時：2015 年 3 月 19 日（木）13 時～17 時

場所：筑波大学東京キャンパス 434 ゼミ室

出席者：佐々木勲人（委員長)、秋谷裕幸、王亜新、小野秀樹、島津幸子、橋本永貢子、松江崇；[欠席］沈力（海外出張のため）

【議事】

1. 262号の依頼原稿について

・ 2014年度全国大会で講演を行った北京大学の袁毓林氏と、講演の司会を担当した大阪大学の杉村博文氏に論文寄稿の依頼をすることとした。

2. 『中国語学』262号の投稿論文について

・ 投稿総数は26篇。審査の結果、21篇を受理した。21篇の分野別内訳は：文字1、歴史音韻2、歴史文法1、方言音韻3、方言語彙1、方言文法2、現代文法11。受理した21篇について、査読者各3名を決定した。査読報告書の提出期限を5月6日（水）とし、5月16日（土）の第2回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

3. 2015年度学会奨励賞の候補者について

・ 261号に掲載された3編の論文の執筆者の中から、5月の第2回委員会で学会奨励賞候補者を選出することとした。

4. 投稿用テンプレートの改善ならびに執筆要領の変更について

・ 投稿用テンプレートの著者氏名欄の表示方法を改善することとなった。また、執筆要領の繁体字に関する規定を変更することになった。

5. 特別編集委員の追加について

・ 音韻・方言分野の専門家を 1 名追加する方向で手続きを進めることとなった。

◆2015 年度第 2 回編集委員会(『中国語学』262 号)

日時：2015 年 5 月 16 日（土）13 時～17 時

場所：立命館大学大阪梅田キャンパス第 2 教室

出席者：佐々木勲人（委員長)、王亜新、小野秀樹、島津幸子、沈力、橋本永貢子、松江崇；[欠席］秋谷裕幸（飛行機欠航のため）

【議事】

1. 『中国語学』262 号投稿論文の採否について

・ 受理した 21 篇の投稿論文について、査読結果に基づいて審議した結果、3 編を採用、8 篇を要二次審査、10 篇を不採用とした。要二次審査の 8 篇は、6 月 30 日（火）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 2015 年度学会奨励賞候補者について

・ 261 号に掲載された 3 編の論文について審議を行い、学会奨励賞候補者を決定した。

3. 投稿規程・執筆要領および投稿用テンプレートの変更について

・ 投稿時に電子ファイルを提出するよう投稿規程を変更することとした。また、投稿用テンプレートと執筆要領に 1 行あたりの文字数に関する問題点が発見されたため、改善することとした。

4. 査読体制の検討

・ 263 号の編集に向けて、査読体制について意見交換を行った。

■ 大会運営委員会

委員：木津祐子（委員長)、飯田真紀、石村広、于康、更科慎一、朱継征、鈴木慶夏、千葉謙悟、中西裕樹、宮本徹、吉川雅之

1. 組織

・ 第 65 回全国大会に向けて、審査・編成を扱う小グループを設けて、役割を分担した。

2. 今年度の大会について

・ 第 65 回全国大会は東京大学（駒場キャンパス）において、10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）に開催する。郭鋭氏（北京大学）、楊凱栄会員（東京大学）による招待講演を予定している。

・ 研究発表応募規定、ポスターセッションガイドライン、予稿集作成要領等の応募関連書類を策定し、ウェブサイトに掲載した。応募期間は 5 月 29 日（金）より 6 月 15 日（月）までである。

・ ワークショップの企画応募期間を、4 月 1 日から 4 月 30 日までとしたところ、2 件の応募があり、審査の結果、2 件ともに採用することとした。

・ 保育室の設置については、昨年に引き続き、開催校の協力を得て実現に向けて準備中である。7 月末までにウェブサイト上で運営方法を告知し、電子メールによる事前申し込みを受け付ける予定である。

3. 来年度の大会について

・ 第 66 回全国大会開催校については、内諾のあった立命館アジア太平洋大学（別府市）を開催校として理事会に推薦することとした。期間等の詳細は、今後当校と協議の上決定する。

■ ウェブリソース委員会

委員：鈴木慎吾（委員長）、石崎博志、植屋高史、山崎直樹

・ 『中国語学』の電子版に未完成の部分があることがわかり、JST（科学技術推進機構）に対応を検討してもらうよう要請した。

・ 学会発行のメルマガ、例会案内等のメールが Hotmail で受信できなくなっていることが判明し、事務支局に対応を依頼した。

■ 辞典編纂委員会

委員：平田昌司（委員長）、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄

下記の日程で会議を開催：2015 年 1 月 11 日（キャンパスプラザ京都）、4 月 26 日（岩波書店）。

科学研究費等により短時間アルバイトを雇用して原稿整理を継続している。当初計画通りの進行が困難である現状にかんがみて、4 月 26 日に平田・大西・小野・三宅の 4 委員が岩波書店辞典編集部から指名を受けて、学会・出版社双方の協議の場をもち、刊行予定を 2017 年秋に延期せざるを得ないという結論に至った。メール審議により木津・朱・竹越・山崎・楊の各委員の了解を得たのち学会事務局に報告するとともに、理事会議題としての審議を依頼。5 月 17 日に理事会で出版 1 年延期を了解いただいたのち、欠席の遠藤光暁理事・古川裕理事にも御報告し、同じく了解をいただいた。

【委員長よりおわび】会員のみなさまには 2016 年秋の 70 周年大会に合わせて刊行するむねのお約束をして事業に取り組んでまいりましたが、主に出版社に入稿するための原稿整理作業が遅れ、出版を 1 年延期するという判断をせざるを得ませんでした。出版社との間で、入稿・組版段階で問題となってくる点の解決をすすめており、今夏から初校が出始める予定です。全体の責任を負う委員長として、会員各位、特に執筆・査読の労をおとりいただいた皆様に深くおわびいたします。引き続

いて努力を続ける所存ですので、御協力をお願いいたします。

■ 研究公正調査委員会

委員：大西克也（委員長）、木津祐子、竹越孝、古屋昭弘、楊凱栄

本委員会は、2014 年度全国大会の一部発表内容に対する著作権侵害の申し立てに対応するため、2015 年 3 月 23 日に設置され、必要な調査を行っている。2015 年 5 月 17 日、神戸市外国語大学において会議を行い、今後の調査方針等を協議した。

■ 2015 年度第 1 回理事会

日時：2015 年 5 月 17 日（日）14 時～17 時

場所：大学共同利用施設ユニティセミナー室

出席者：太田斎（会長）；大西克也*（副会長）；小野秀樹、平井和之、木津祐子**、楊凱栄（以上理事）；佐々木勲人（編集委員長）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；平田昌司（辞典編纂委員長）；紺野達也、竹越孝（以上幹事）

欠席者：遠藤光暁、古川裕（以上理事）

* 研究公正調査委員長を兼ねる

** 大会運営委員長を兼ねる

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ 評議員交代

関東支部：埋田重夫（静岡大）
→張　盛開（静岡大）

北陸支部：大滝幸子（金沢大）
→山田眞一（富山大）

九州支部：石　汝杰（熊本学園大）
→植田　均（熊本大）

1.2 会員動向（2015 年 4 月 1 日現在）

・ 会員数：

			増減
総会員数（賛助除く）		1202 名	±0
（内訳）	顧問	5 名	±0
	名誉会員	25 名	＋1
	通常会員	748 名	－20
	ネット会員	319 名	＋15
	団体会員	7 名	－1
	海外会員	98 名	＋5
賛助会員		23 社	±0

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。

2014 年度の除籍者は 39 名。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］

〒651-2187 神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学　中国学科内

［会員関係］

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

中西印刷株式会社　学会部内

担当：小畑香菜

Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662

E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

・ 支部例会世話人交代

北陸支部：大滝幸子（金沢大）
→山田眞一（富山大）

九州支部：石　汝杰（熊本学園大）
→植田　均（熊本大）

・ 今年度の例会開催予定

北海道（鈴木　慶夏会員）：　1 回

関　東（町田　　茂会員）：　4 回

北　陸（山田　眞一会員）：　1 回

東　海（丸尾　　誠会員）：　1 回

関　西（下地早智子会員）：　2 回

中　国（小川　泰生会員）：　2 回

九　州（植田　　均会員）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

木津委員長より次の報告があった。

（1）第 66 回全国大会開催校

・ 立命館アジア太平洋大学（別府市）に内定。開催校選出の大会運営委員は同大学の前田真砂美会員。

（2）2015 年度大会ワークショップ企画

・ 今回は以下の二つの部会で行うこととなった（発表タイトルはいずれも仮題。*は非会員）。

１）中国語結果構文における諸問題を巡る展開と今後の展望―認知文法、概念意味論、統語論によるアプローチから

企画：鈴木武生・楊明

発表：楊明「参照点構造におけるプロファイル・シフトによる自他交替－中国語の結果構文を例に－」、秋山淳「結果を表す動補構造の記号化と意味機能」、鈴木武生「中国語結果構文における意味構造を巡る諸問題とリンキング規則による説明の妥当性」、李鵬「中国語結果構文と SC 分析」

２）太田辰夫的汉语史研究

企画：竹越孝

発表：竹越孝「太田辰夫的元明汉语研究」、山田忠司「太田辰夫的清代民国汉语研究」、大西博子「太田辰夫的汉语方言研究」、汪維輝*「太田辰夫的汉语史研究在中国的吸収与发展」

コメント：佐藤晴彦

（3）保育室の設置について

・ 第 64 回全国大会に引き続き保育室を設置する方向で検討中である。7 月末までにウェブサイト上で運営方法を告知し、電子メールによる事前申し込みを受け付ける。

4. 編集委員会報告

佐々木委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』262 号査読結果

・ 受理した投稿論文 21 本（不受理 5 本）について査読報告書に基づき採否の判定を行い、3 本を採用、8 本を要二次審査、11 本を不採用とした。

（2）『中国語学』262 号特集について

・ 袁毓林氏および杉村博文会員に論文を依頼することとした。なお、特集は組まない。

（3）学会奨励賞候補者推薦について

・ 第 2 回編集委員会において候補者を選考した。

（4）『中国語学』投稿の電子化について

・ 投稿規定の変更を検討することになった。

5. ウェブリソース委員会報告

鈴木委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』電子アーカイブの未完成部分について

・ 約 15％から 20％が未完成であり、現在、JST に問い合わせ、対応を検討している。

（2）Hotmail 宛てメールの配信エラーについて

・ 今年 1 月から 4 月にかけて e-naf からのメールにエラーが発生したため、事務支局に対応を依頼し、現状は復旧している。

6. 辞典編纂委員会報告

平田委員長より、現在の進捗状況および委員会として出版延期の判断に至ったことが報告された。

7. 研究公正調査委員会報告

大西委員長より、委員会の調査活動および今後の方針についての報告があった。

8. その他

太田会長より、来年度評議員の委嘱に際し、秋の大会で周知したい旨の報告があった。

【審議事項】

1. 学会奨励賞の授賞について

・ 学会奨励賞の授賞者を編集委員会の原案通り承認した。

2. 次期全国大会について

・ 大会運営委員会から、第 66 回全国大会開催校について、内諾のあった立命館アジア太平洋大学に依頼したい旨の提案があり、原案通り承認された。開催時期は 10 月 22 日～23 日もしくは 11 月 12 日～13 日のいずれかとし、当該校と相談の上で決定することとした。

3. 選挙管理委員について

・ 会長から、小野秀樹、加藤晴子、更科慎一、竹越孝の各会員を選挙管理委員に任命し、小野会員を委員長に任命したい旨の提案があり、承認された。

4. 内規の改正について

・ 編集委員会から、『中国語学』編集委員会に関する内規（4）特別編集委員の「海外の専門家 5 名」を「5 名程度」に改正したい旨の提案があり、次回の評議会に諮ることとした。

5. 『中国語学辞典』の出版について

・ 辞典編纂委員会から、刊行を一年延期したい旨の提案があり、承認された。

6. 顧問の委嘱・名誉会員の推挙について

・ 顧問の委嘱について、次回の評議会・総会にて報告し、承認を求めることとした。名誉会員については、ニューズレターに推挙依頼を掲載することとした。

7. その他

（1）科研費の申請について

・ 今年度は申請を見送り、情報収集に努めることとした。

（2）賛助会員の入会について

・ 申請のあった賛助会員の入会について承認した。

（3）『中国語学』執筆要領の改訂について

・ 編集委員会から、投稿時において電子ファイルの提出を求めることができるよう、執筆要領を改訂したい旨の提案があり、了承された。編集委員会には『中国語学』の次号発行までに改訂案を諮るよう求めることとした。

全国大会および例会開催のお知らせ

第 65 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は東京大学駒場キャンパスにて 10 月 31 日（土）～11 月 1 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願いします。なお、発表申し込み期間は 5 月 29 日（金）より 6 月 15 日（月）までとなっています。7 月中旬に採択者一覧が、7 月末に大会プログラムが学会ウェブサイト上にアップされます。（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月）
関東支部：4 回（6 月 20 日、7 月、9 月、12 月）
東海支部：1 回（11 月）
北陸支部：1 回（2016 年 2 月か 3 月）
関西支部：2 回（6 月 27 日、12 月）
中国支部：2 回（5 月 24 日、10 月 18 日）
九州支部：2 回（7 月 4 日、12 月）
発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しています。なお、開催に関する詳細は、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。（事務局）

選挙公示

2015 年 10 月 31 日（土）、第 65 回全国大会会場（東京大学駒場キャンパス）において、日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規（会則第 10 条関連）」に基づき理事の選挙を行ないます。選挙は専用の投票用紙によって４名連記で投票し、即日開票の上、得票数上位８名を候補者とし、そのうち最高得票者を会長、その他の７名を理事の当選者とするものです。被選挙人名簿は、10 月初旬までに学会ウェブサイトに掲示するとともに、当日、大会会場受付にて投票用紙とともに配布いたします。

選挙管理委員会委員
小野秀樹（委員長）、加藤晴子、更科慎一、竹越孝

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、事務局までご連絡をお願いします。

王艷霞、呉忠恩、洪潔清、田所達雄、趙晶晶、張志凌、永江貴子、潘藝梅、包聯群、劉小俊、林芝羽、石慧敏、東会娟、蔡春花、森博、熊娟、張睿、趙瑩瑛、董雪嬌、鄭若曦、史曼、夏海燕、李相軍、邱林燕、別紅櫻、谷恵中、王暁丹、羅希、金香、路浩宇

■ 2015 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会
口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請

求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。なお除籍者名は冬のニューズレター上で公表されます。

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は2000円となっています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先　2016 年 3 月まで

事務局への郵便物は、

〒651-2187 神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学　中国学科内

日本中国語学会事務局宛

にお願いします。また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

訃　報

本学会の名誉会員である金丸邦三先生（東京外国語大学名誉教授）におかれましては、2015 年 4 月 23 日に 81 歳の生涯を閉じられました。ここに会員各位にお知らせするとともに、永年にわたって本会ならびに斯学の発展に寄与された先生の多大な功績とご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2015 年 6 月

日本中国語学会会長　太田斎

日本中国語学会々報　2015 年春季

（年二回発行）

発行者：日本中国語学会事務局

〒651-2187

神戸市西区学園東町 9-1

神戸市外国語大学　中国学科内

E-mail: jimukyok@chilin.jp

URL: http://www.chilin.jp/

発行日：2015 年 6 月 8 日